



1 課題

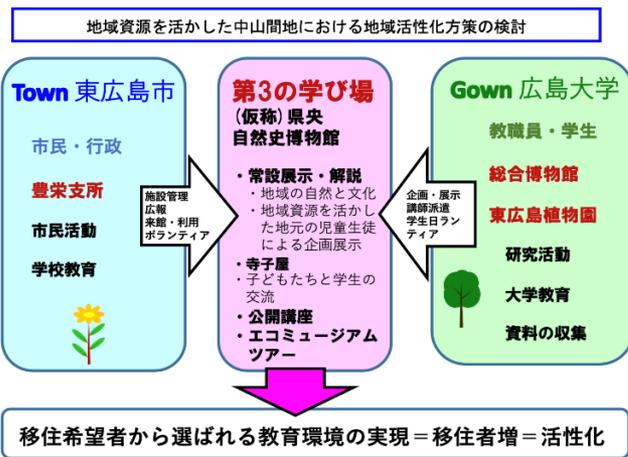
福富町や豊栄町、河内町などの中山間地域では人口減少が続き、過疎化と高齢化が深刻な問題となっている。近年、自然史資料が散逸・消失の危機にあることが全国的な問題になっており、広島県においても、県標本6万点が活用の目途がつかない状態で保管されている。

2 概要

豊栄支所の遊休スペースを活用し、自然史に関わる資料や情報を安定的に保存するとともに広く市民に公開し、学校教育・社会教育に活用することによって交流人口の増大、地域の活性化を目指す。

大学 中坪 孝之
 広島大学 総合博物館 館長

市担当課 総務部 政策推進監



3 研究成果 データ取得・分析

▲研究イメージ

▲展示の様子

豊栄支所の遊休スペースを活用し、市と大学の共同による博物館展示を整備し、自然学習講座を開催した。7月22日から9月11日までの開催期間中に、延べ2,442人の来場者があり、来場者の97%から「とてもよかった」、「まあよかった」の評価を受け、自然科学教育への関心が一定程度存在することが確かめられた。

4 今後の展望・現状 次の研究段階へ前進



令和5年度のCOMMONプロジェクト共同研究型として継続実施。